

## 今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇PVC Design Award 2016

ー東京・大阪で、デザイナー向け説明会を開催ー

PVC Design Award 事務局

■ [随想](#)

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(16)

木下 清隆

■ [編集後記](#)■ [トピックス](#)

◇PVC Design Award 2016

ー東京・大阪で、デザイナー向け説明会を開催ー

PVC Design Award 事務局

本メルマガ[No. 547](#)でご紹介しましたが、今年6回目を迎える[「PVC Design Award 2016」](#)のデザイン提案、製品応募の募集が4月20日にスタートしております。テーマは昨年に引き続き「安心・安全・快適」です。早いもので、デザイン提案の締め切りまで後一月ほどとなりました。

今年は、デザイン提案からの試作につきましては、これまでと仕組みを変更し、集まった提案の中から、加工メーカーなどが作りたいと思うデザインを選定し、デザイン提案者と試作について合意が得られればプロトタイプ制作を行うこととしています。

主催団体としましては、デザイン提案者の方々には、作り手が一つでも多く作りたい作品を選びマッチングが成立するよう、多くの作品のご提案を期待しております。そのため、デザイナーの方々に塩ビ素材を知っていただく目的で今年もデザイナー向けアワード説明会を大阪と東京で開催いたしました。

大阪では、昨年と同じメビック扇町でクリエイティブネットワークセンター大阪メビック扇町と共催で4月21日に開催し、デザイナー25名の方々に参加いただきました。また、東京では5月10日に東京国際フォーラムで開催し、デザイナーの方々35名に参加いただきました。主催団体から、今年のアワードの仕組み、変更点や、スケジュールなどを説明し、終了後には展示したこれまでのアワード受賞作品やソフトPVCシート、レザー、見本帳などの素材を囲んでの交流会を実施しました。



大阪会場（説明会・交流会）



東京会場（説明会・交流会）



素材や製品の展示

説明終了時には、塩ビの実用物性のみならず今回のマッチング方式のシステムについての質問も受け、参加者の関心の深さが伺えました。さらには、交流会では、今年も自分の作りたい作品のモデルを持参し制作について相談される方がいらっしゃいましたし、参加された専門学校の学生を通じ先生から授業の一環として応募を考えているので改めて説明に来て欲しいなどの要請も受けております。今年は名古屋での説明会は実施できませんでしたが、大阪会場にわざわざ名古屋から参加いただいた方もおられ、主催者側も今年のアワードを是非成功させたいと気持ちを引き締めました。

アワード募集要項は、[HPに掲載しております](#)が、素材に関するご質問なども、いつでもお受けしておりますので遠慮なく[ご相談ください](#)。また、従来通り製品応募も募集しております。今年のテーマ「安心・安全・快適」に沿った、多くの作品をお待ちしております。

## ■ 随想

### ◇古代ヤマトの遠景〔番外〕（16）

木下 清隆

<前回とのつながり>

前回までの検討で、伊勢の櫛田神社の祭神は当初は櫛玉命の命であったが、その後、何かの理由で大若子命に替わった、といったことが明らかとなってきたが、今回からは何故櫛田神社が創建され、櫛玉命が祭祀されるようになったのかの問題に移っていく。

### 5. 櫛田神社の創建

次に、櫛田神社はどのような目的で、いつ、櫛田川のほとりに創建されたのだろうか。この問題については、そもそも祭神ですら推測しているくらいだから、何の手掛かりもあるはずは無く、単に類推するしかない。ただ、これまでの検討から分かってきたことがある。それを改めてまとめると次のようになる。

- 持統朝に新生伊勢神宮がスタートしたとき、今まで内宮、外宮双方の禰宜を務めていた度会氏が外宮だけの禰宜にされたことで、彼等の不満と危機感は極度に高まったと想定される。このとき彼等が考えたことは、伊勢神宮創建の功臣である大若子命を大いに宣伝し、自分達の地盤沈下を食い止めることだったのではなかろうか。当時、外宮の摂社である大間国生神社は天皇家に係わる公的なものであり、これを私的に利用することは出来ない。このためこれとは別に新たに大若子命を祀る神社が必要となり、結果的に櫛田神社に大若子命を祀るようになったと考えられる。



伊勢神宮 外宮（豊受大神宮）



大間国生神社

ところが、櫛田神社の祭神は江戸時代まで櫛玉命であるとの伝承が一部に伝えられている。この伝承は、神道関係者、国学者等当時の知識階級の間には伝えられたものだけにはかなりの信憑性があると云えよう。従って、櫛玉命説は捨てられないとするなら、先ず櫛玉命を祭祀するために櫛田川の辺に櫛田神社が創建され、その後、祭神が大若子命に替えられたと考えざるを得ないことになる。 —

このようにまとめてみると、

- なぜ櫛玉命は祀られたのか。それは何時のことなのか。
- なぜ櫛玉命は大若子命に替えられたのか。

といった疑問が出てくる。このような新たな疑問に解答を出すのは難しい問題であり、直接的に解決に導くような史料があるわけではないので、ここでは、先に出てきた天日別命の周辺を調査して、この命と度会氏との関係を整理すると共に、櫛玉命に関連する情報を集めてみることにする。

天日別命に関しては、『伊勢国風土記』逸文（日本古典文学大系『風土記』岩波書店 一九五八）が重要な史料であり、先ず、これを検討してみる必要がある。全体を理解するために幾分長くなるが再度、これを引用することにする。

「伊勢の国の風土記に云はく、夫れ伊勢の国は、天御中主尊の十二世の孫、天日別命の平治けし所なり。天日別命は神倭磐余彦の天皇、彼の西の宮より此の東の州を征ちたまひし時、天皇に随ひて紀伊の国の熊野の村に到りき。時に金の烏の導きの随に中州に入りて、菟田の下県に至りき。天皇、大部の日臣命に勅りたまひしく、『逆ふる党、膽駒の長髓を早く征ち罰めよ』とのりたまひ、且、天日別命に勅りたまひしく、『天津の方に国あり。其の国を平けよ』とのりたまひて、即ち標の剣を賜ひき。



伊勢 宮川  
(古くは伊勢神宮の禊ぎ川)

天日別命、勅を奉りて東に入ること数百里なりき、其の邑に神あり、名を伊勢津彦と曰へり、天日別命、問ひけらく、『汝の国を天孫に獻らむや』といへば、答へけらく、『吾、此の国を甞ぎて居住むこと日久し。命を聞き敢へじ』とまをしき。天日別命、兵を発して其の神を戮さむとしき。時に、畏み伏して啓しけらく、『吾が国は悉に天孫に獻らむ。吾は敢へて居らじ』とまをしき。天日別命、問ひけらく、『汝の去らむ時は、何を以ちてか駭と為さむ』といへば、啓しけらく『吾は今夜を以ちて、八風を起して海水を吹き、波浪に乗りて東に入らむ。此は即ち吾が去る由なり』とまをしき。天日別命、兵を整へて窺ふに、中夜に及る比、大風四もに起りて波瀾を扇挙げ、光耀きて日の如く、陸も海も共に朗かに、遂に波に乗りて東にゆきき。古語に、神風の伊勢の国、常世の浪寄する国と云へるは、蓋しくは此れ、これを謂ふなり。天日別命、此の国を懐け柔して、天皇に復命まをしき。天皇、大く歡びて、詔りたまひしく、『国は宜しく国神の名を取りて、伊勢と号けよ』とのりたまひて、即て、天日別命の封地の国と為し、宅地を大倭の耳梨の村に賜ひき。」

更に、先に紹介した別の風土記逸文も再掲する。

「伊勢の国の風土記に云わく、伊勢と云ふは、伊賀の安志あなしの社に坐す神、出雲の神の子、  
出雲建子命いずもたけこ、又の名は伊勢都彦命いせつひこ、又の名は櫛玉命あへしひこなり。此の神、昔、石もて城を造りて此に坐しき。ここに、阿倍志彦の神、来奪ひけれど、勝たずして還り却りき。因りて名と為す。」

風土記の内容は、神武天皇の東征に随った天日別命が、天皇に天津の方の国を討てと命じられ、そこに住む国神の伊勢津彦に国譲りを強要し、戦わずしてその地を平定した。この報を受けた天皇は大変喜び、その地を、国神の名に因んで伊勢と名付け、天日別命に与えた、また宅地を大和の耳梨の地に与えた、というものである。更に別の逸文には伊勢津彦と出雲及び櫛玉命との関係が言及されている。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)  
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

4年半ほど前に腕時計をソーラー時計に変えました。太陽光や部屋の光で充電し動いてくれるという便利なもので、ずっと快適に使っていましたが、先日、時間が遅れ秒針の動きも悪く、明らかに「電池切れ」状態になってしまいました。説明書を見てみると、なんと、充電を気にしなくて良いのではなく、むしろ意識的に光に当ててあげなければならぬとのことでした。冬場に袖に隠れていたり、外した後暗い部屋に置いておいたりすると充電不足になるそうで、布団を干すように月に1回~2回時計を太陽の光で充電する(時計が高温にならないように注意して)と良いとのことでした。『なんだ、手の掛かる奴だな♡』と急に可愛く感じられるようになってしまいました。(漠)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)